

# 平成26年度 学校評価

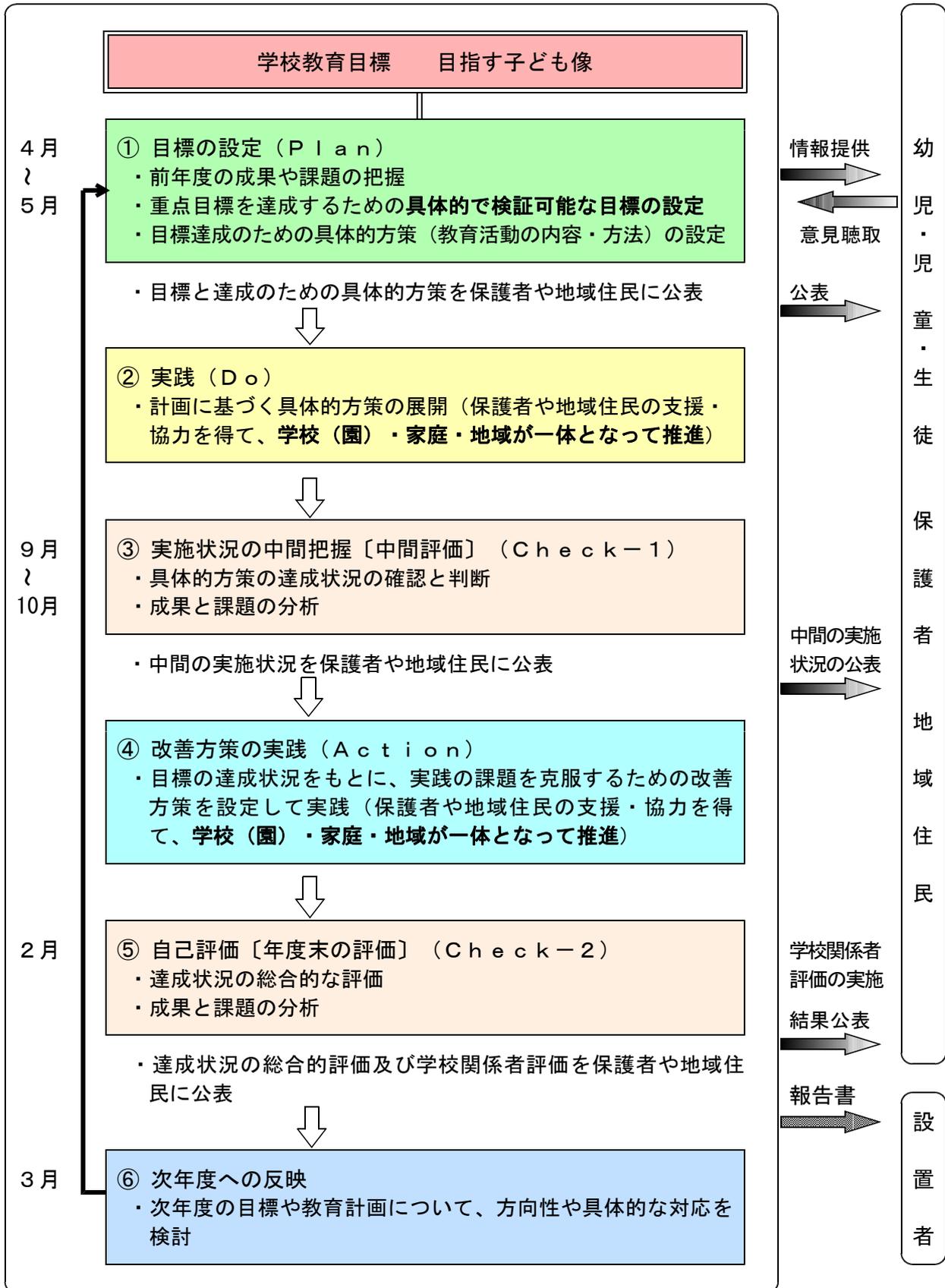
平成26年度 「自己評価」

・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

# あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

# 平成26年度 秋田県立新屋高等学校 教育計画

## 1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

## 2 教育方針

- I 基本的生活習慣の確立 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成
- II 学力の向上 強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成
- III 特別活動の充実 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成
- IV 進路の早期決定と実現 早期に進路決定に取り組み、その目標に向かって真剣に努力する人間の育成

## 3 経営方針

I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。

### II 重点目標

- 1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。
  - ①地域和学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。
  - ②校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
  - ③家庭と連携し、規則正しい生活と、必ず朝食を摂る習慣で、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
  - ④危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。
  - ⑤S Cや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。
- 2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
  - ①朝学習を10分間とし、心を落ち着かせてから授業に取り組みせることで、学力向上につなげる。
  - ②3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かないなど、集中力を高める工夫を行う。
  - ③評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
  - ④学習に関するオリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
  - ⑤授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。
  - ⑥「休養日」の設定や、部活動終了時刻の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
  - ⑦教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。
- 3) 生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
  - ①生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。
  - ②日々の練習をとおして、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。
  - ③新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
- 4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標に真剣に取り組む生徒を育てる。
  - ①担任は1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒による自主的な進路目標を作成し、進路実現のために具体的な事項を設定した指導を実施する。
  - ②学年部は生徒一人ひとりの進路目標達成のために最善の努力を行い、生徒の主体性を尊重しながら、適切な指導を行う。
  - ③部活動顧問は部活動の目標が、その生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力をとおして進路の実現を図らせる。
  - ④進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会をとおして生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。
  - ⑤「総合的な学習の時間」を、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

評価領域	生徒指導・地域連携
------	-----------

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	マナーアップ指導の徹底を重要課題として生徒指導を展開している。身だしなみを整える事に関しては評価を得ることができたが、あいさつの励行に関しては、校内外共にできていないと指摘を受けている。自ら進んであいさつができる、“生き方指導”がこれからの生徒指導の求められる最重要課題である。	
具体的な目標	①マナーアップ指導の徹底②非行、事故の未然防止と、問題行動時の適切な対応 ③学年部・教育相談部・地域・家庭との密接な連携。	P
目標達成のための方策	①全校集会においてパワーポイントを使用し学校内外でのモラルやマナーを説明しロールプレイングでよりわかりやすく行う。 ②毎朝の昇降口指導、定期的な整容指導で制服を正しく着用させる。集会などで注意を喚起し、問題行動発生時に備え定期的な指導部員の意思の疎通をはかり、発生時には迅速な対応と保護者への丁寧な対応を心がける。 ③職員間の報告・連絡・相談を怠らない。定期的な地域社会との情報交換を行い情報収集を怠らない。	
具体的な取組状況	①4月、新入生を迎え直ぐに全校集会を開きスクールマナー集会を開催。挨拶の仕方、言葉遣い、制服の着用、学校生活、登下校のマナー、携帯電話の使い方などきめ細かく事例を挙げて徹底させる。生徒、教師でロールプレイングを行いわかりやすく説明する。 ②地域の青少年育成委員の方と月一度の新屋駅での駐輪場指導とあいさつ運動。三ヶ月に一度の職員による街頭指導。 ③集会時には必ず問題行動に関する事例を挙げ注意を促し、全校一斉に行われるアンケートの状況をきめ細かく分析し、問題行動の未然防止に役立つ。清掃ボランティアや地域に設置されている特別支援教育施設訪問を実施し、思いやる心と生きる力を育むと同時に、地域住民とのかかわりを深め、地域の一員としての自覚を持たせる。	D
達成状況	①1年生はもちろんだが2、3年生にとっても効果がある。先生方に対する言葉遣いや職員室入室時などの挨拶や言葉遣いも適切に使い分けるようになる。 ②昨年度より地域での生活の行動に変化が見られた。 ③定期的な校内、三ヶ月に一度の街頭指導、最寄りの交番、青少年育成委員の方との情報交換で生徒の動向を把握し問題行動の抑止力にもなっている。地域の方々や保護者とのかかわりを深める中で「新屋地区で生活をする一員としての自分」という視野を持つ生徒が増えている。また、地域社会に貢献するボランティアも積極的に参加し自己肯定感や自己有用感を獲得することができた。	

自己評価	(評価)  B	(根拠) ①ロールプレイングによるスクールマナー教室の取り組みの効果は十分あった。特に、場面に応じた挨拶や言葉遣いなどは適切に使えるようになった事や、携帯電話の使い方、モラルやマナーなどの問題行動は未然に防止された。 ②月一度の新屋駅での駐輪場指導とあいさつ運動、三ヶ月に一度の街頭指導の取り組みの成果は規範意識向上に繋がった。 ③落ち着いた生活を送っている中に落とし穴があった。校内外での巡視や様々な期間からの情報収集から生徒指導部だよりでの情報提供をきめ細かに行ってきたが、生徒の心の中に落とし込む指導ができなかった事が、懲戒処分者を出すことに繋がってしまった。また、年々スマートフォンを使用する生徒が増加し新たな問題が発生しかねない状況になってきた。先行する技術や生徒の使用技術に対してどのような指導をしていくべきかが課題である。学校周辺の巡視の際に校外での生徒の生活状況を把握し、学校側からの情報も伝えるなど連携を図れた。	C
------	---------------	--	---

↑  
評価基準  
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価)  B	生徒指導の先生を中心に新屋交番、地域の民生委員、児童委員、青少年育成委員との新屋駅での声掛け運動や地域の行事に積極的に参加している姿に感動している。そのような取組の中で、整容面に気を付けている生徒やボランティア活動に積極的に参加している生徒が増加傾向にある一方で、挨拶やマナーを心掛けることができない生徒が増えているのはなぜだろうか。部活動をしている生徒はよく挨拶をするが、その他の生徒にはもう少し頑張ってもらって挨拶をしてほしい。また、今回のアンケートには「いじめ」に関する項目はなかったが、本校ではそのような問題が存在しないと理解すべきか。サッカー部の選手権大会出場、新屋高校に向けられる目は、今までと違う。特に地域社会が注ぐ思いは違うことを生徒だけではなく教職員も含めて考えてほしい。	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	昨年度の反省点から、校外での挨拶の励行や自転車の乗車マナーを重要課題として生徒指導を展開してきた。その中で、関係機関との月1回の新屋駅での声掛け運動や駐輪場指導、そして生徒指導部員による街頭指導(年4回)、列車指導(年1回)、毎朝の校内巡視を行う中で、非行、事故の未然防止を心掛けてきた。残念ながら特別指導を受けた生徒が1名出たが、命に関わる大事故はなかった。また、学校周辺の交通安全マップや不審者出没危険マップを作り生徒の命を守る取組を行い、秋田県内でも多発している高校生による犯罪を「対岸の火事」と捉えず、「命の大切さ」、「命の尊さ」教育の実践を今年度の取組を継続すると共に、地域社会を後押しできる人材育成を強く深く押し進めたい。	A
-----------------------	---	---



自己評価	(評価)  B	(根拠)  ①ベル着授業や起立回答は、互見授業や授業アンケートなどにより生徒からの授業評価は向上した。ただし、授業内容に満足していない生徒が112名おり改善の余地がある。 ②アンケートによると、生徒・保護者とも「進路指導が生徒一人ひとりの目標達成に役立っている」という回答がかなり増えている。総学等で計画的に実施した進路行事や面談等が評価されているようである。ただし、昨年より減少したものの「役立っていない」という生徒が、まだ76名いることは課題である。 ③アンケートで「進路目標を持ち意欲的に授業に臨んでいる」と答えた生徒が、480名（昨年度454名）に増えた。ただし、「そうでない」と答える生徒がまだ104名いることは大きな課題である。 ④生徒アンケートでは、家庭学習習慣は昨年より若干向上しているが、11月の学習時間調査では、平均で1年生1.1h、2年生0.6hと低迷している。特に、1・2年生の国公立大志望者の家庭学習時間平均は1年生1.3h、2年生0.9hと、目標の2時間/日には達していない。一層の家庭学習習慣の定着を図る必要がある。	C
------	---------------	--	---

↑  
評価基準  
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。  
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価)  B	大学受験に要求される学力は多様で、知識・理解力だけでなく、問題解決力・読解力・表現力など活用・応用力が求められると思う。講義形式に偏らない、総合力を育てる授業の工夫を願いたい。 1、2年生時の国公立大進学希望者数に比べて、達成者が少なすぎる。学習習慣の確立などを徹底させてほしい。 どのような流れの勉強をすれば、結果このような道に進んでいるという見取り図を示して意欲を喚起してほしい。 進路情報をリアルタイムで与えるなどして、早期の進路目標設定を図ってほしい。	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	総合的な学習の時間において読書活動や発表活動をさせたり、各教科の授業の中で言語活動を増やすなど、総合的な学力を伸ばす工夫が求められる。また、授業だけでなく、学校行事への積極的な参加や、高大連携授業等学校外の活動への参加など、幅広い体験活動を促す必要がある。 進路志望の近い生徒をまとめたグループ面接を実施してライバル心を持たせるなど、3年生になる前に受験に向かう意識を喚起する手立てを工夫したい。また、2年部の進路検討会を秋までに実施して、生徒への働きかけの時期を早めたい。 分野別進路ガイダンスの実施時期や回数等を見直し、進路を考える機会を充実させたい。	A
-----------------------	--	---

評価領域	特別活動の充実
------	---------

重点目標	健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。
------	--

現 状	創立30周年という機会に母校に対する誇りや意識を一層高めるには部活動が重要との認識から、これまで強化指定部を中心に部活動の活性化に取り組んできた。とりわけ運動部では強化指定部のサッカー部・硬式野球部の他、昨年もインターハイ出場を果たしている弓道部・バドミントン部や剣道部、文化部では吹奏楽部や理科研究部などが全国・東北大会等での活躍を期待されている。生徒会活動としては、学校行事の充実とともに地域に定着しつつあるボランティア活動にも積極的に参加している。
-----	---

具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達
--------	-------------------------------

目標達成のための方策	<p>①生徒会活動の充実・・・執行部を中心に、主体的な行事の企画・運営ができるよう指導する。地域との交流を深めるため、学校行事等について地域への周知を図る。</p> <p>②部活動の活性化・・・全国や東北レベルで活躍できる部の育成のため、予算の適正配分や補助等ある程度の絞るとともに、学校全体としての支援体制を確立する。各部において適切で合理的な指導が行われるよう各顧問の意識を高める。</p> <p>③心身の調和した発達・・・文武両道の精神に則り、学業や部活動に高校生としての本分を尽くせるよう個々の自覚を促し、それぞれの目標に対する意欲を高める。</p>
------------	---

具体的な取組状況	<p>①生徒会執行部を中心に、一般生徒の意見を行事に反映させるなど、主体的な運営に取り組んでいる。学校行事を地域の広報紙等に掲載してもらうなど周知に務めた。地域の祭り等への参加は恒例となっており、一般生徒の希望者も参加した。30周年生徒実行委員会を中心に、震災被災地へのボランティア等を企画・実行した。</p> <p>②各部の実績に応じた強化費の配分や遠征補助等により、部活動の活性化を図った。各部の年間計画の作成や外部コーチの積極的活用により、一層の競技力向上や部員・指導者の意識改革に取り組んだ。</p> <p>③「ももさだの日」や学習強化期間の徹底により、部員の学習時間確保に務めた。また、部単位で勉強会を実施するなど部員の意識向上を図る取り組みも見られた。</p>
----------	--

達成状況	<p>①生徒会活動では、オープンスクールでの学校紹介やリーダー研修会参加、こでん回収協力等の活動等の他、日吉神社の祭礼や新屋大川散歩道雪祭りへの参加、栗田養護運動会運営ボランティア等、地域との交流活動が定着してきており、地域住民の方々にも恒例となりつつある。</p> <p>②今年度は、弓道部男子団体とバドミントン部女子ダブルスでインターハイに出場。サッカー部は全国選手権大会初出場を決めた他、弓道部は全県新人で男女団体優勝を果たし全国大会出場を決めている。また、剣道部と弓道部から県代表として国体に選手が出場した。東北大会には、剣道部・弓道部・バドミントン部・水泳部・陸上部が出場した。文芸部からは全国高校文芸コンクールに出場者を出している。</p> <p>③休養日（百三段の日）や学習強化期間の趣旨が定着して、部活動と学習の両立を目指す生徒が学習時間を確保することができる環境が整ってきている。自分の進路目標に対して高い意識を持った生徒も見られた。</p>
------	--

P

D

自己評価	(評価)  B	<p>(根拠) 創立30周年に向けて強化を図ってきた部活動については、サッカー部の全国選手権大会初出場をはじめ、全国大会や国体出場、東北大会での優勝など、ここ数年で最も高い成果をあげている。学校祭をはじめとする学校行事についても、昨年度に比べ「活発に活動している」というアンケートの回答が増えている。</p> <p>①生徒会活動では、執行部を中心に新高祭をはじめ各行事で30周年を盛り上げるため企画・運営に工夫を凝らして取り組んだ。また、地域行事への参加やボランティア活動を通じ、地域との交流を一層深めている。</p> <p>②サッカー部、弓道部、バドミントン部の全国大会出場の他、弓道部は東北大会女子個人及び東北高校選抜男子団体に優勝している。これに続き上位大会で勝ち進むには一層の強化策や支援体制が必要である。</p> <p>③百三段の日や学習強化期間の趣旨が浸透し、部員の学習時間はある程度確保できるようになってきている。アンケートでも「学習時間の確保に有効」という回答が増え生徒の意識が少しずつ高まっているように見える。</p>	C
------	---------------	--	---

↑  
評価基準  
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価)  B	<p>30周年の節目に、サッカー部の全国選手権初出場をはじめ、弓道部やバドミントン部などが活躍したことは、これまでの強化策が実を結んだ結果であり喜ばしい。全国大会出場校、東北大会優勝校に相応しい学校や生徒であるべきことを今一度意識してほしい。これを機会に新屋高校の全ての活動において弾みがつき、地域との連携や同窓会等の充実にも繋がるものと期待している。また、合宿所の整備・活用、運動部OB・OGや地域の経験者に指導の協力を要請することなどについても検討してほしい。生徒会活動では、一般生徒の意見をできるだけ取り入れることで、地域の行事への関心が高まり、参加者が増えることに繋がると思う。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>生徒会活動では、執行部を中心に恒例となっている地域行事への参加や、30周年事業の一環として震災地でのボランティア活動等に積極的に取り組んできたが、さらに一般生徒の参加を増やすためには、活動の趣旨を全校生徒に浸透させ、生徒の意見を積極的に取り入れた開かれた生徒会活動の運営が必要である。</p> <p>部活動では、サッカー部の全国選手権大会出場に際し、他の運動部を含む多数の生徒が応援に参加し、大いに刺激になったと思われる。他にも弓道部の東北大会優勝等もあり、今年度の成果を部活動全体の活性化に繋げるとともに、全国大会・東北大会のレベルで、地域の期待に応えられるような一層の活躍ができるよう、的を絞った予算配分や外部コーチの導入、練習環境の整備等の支援体制を強化していきたい。</p>	A
-----------------------	--	---